

## 2019年7月30日（火）～8月3日（土） 北アルプス 表銀座を歩く

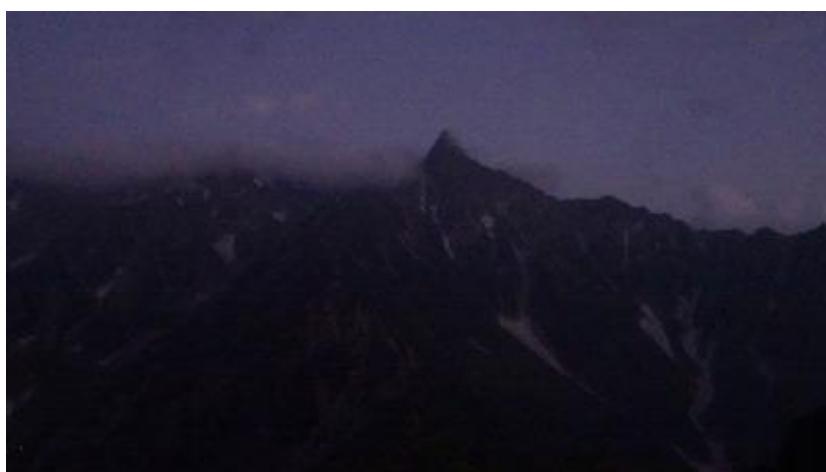
今回の長い山歩きで大変恵まれたことが2つ有ります。好天続きと山小屋が比較的空いていたことです。

登山開始直前に、例年に無く長くてうつとうしい梅雨が明けてくれました。午後になってかなり激しい雨が降ったこともありましたが、我々は幸運にも雨に濡れることを免れました。

空いている山小屋のお陰で、ゆっくり休めました。疲れの回復のためには何よりも熟睡出来ることが大切かと思いますが、山小屋3泊とも一人辺りの広い寝床スペースが確保出来て、翌日のエネルギーを満たすことが出来たように思います。

ヒュッテ西岳の朝も、爽やかに迎えることが出来ました。

4日目（8月2日 金曜日 晴）



十分な睡眠を取り、4時過ぎに起き出した。

本日も快晴で、今日目指す槍ヶ岳のシルエットが暁暗の中に浮かんでいた。



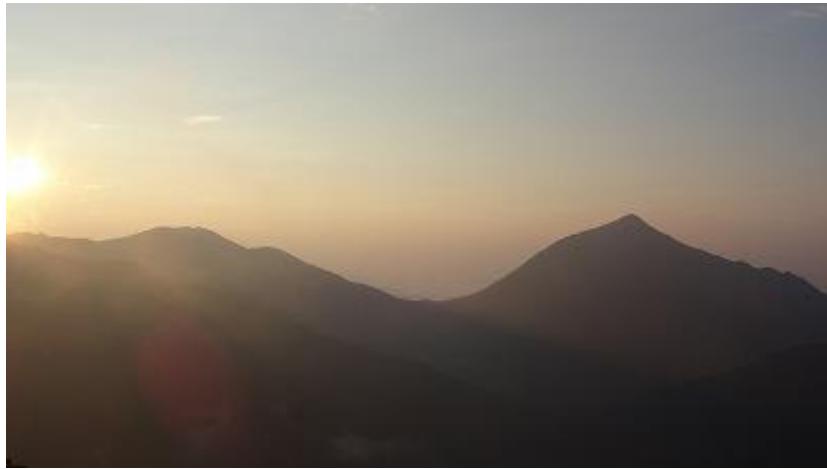
蚕棚の床を払って、早々に登山準備完了

泊まった登山客は20数名ほどか？  
体力回復には、ゆとりのあるスペースでゆっくり寝られることが何よりだ。

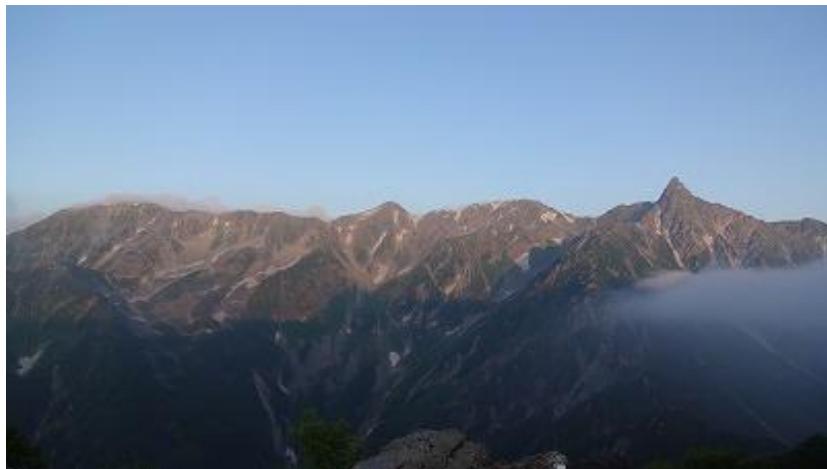


5時朝食

2人とも2膳食べて、食欲も旺盛だ。



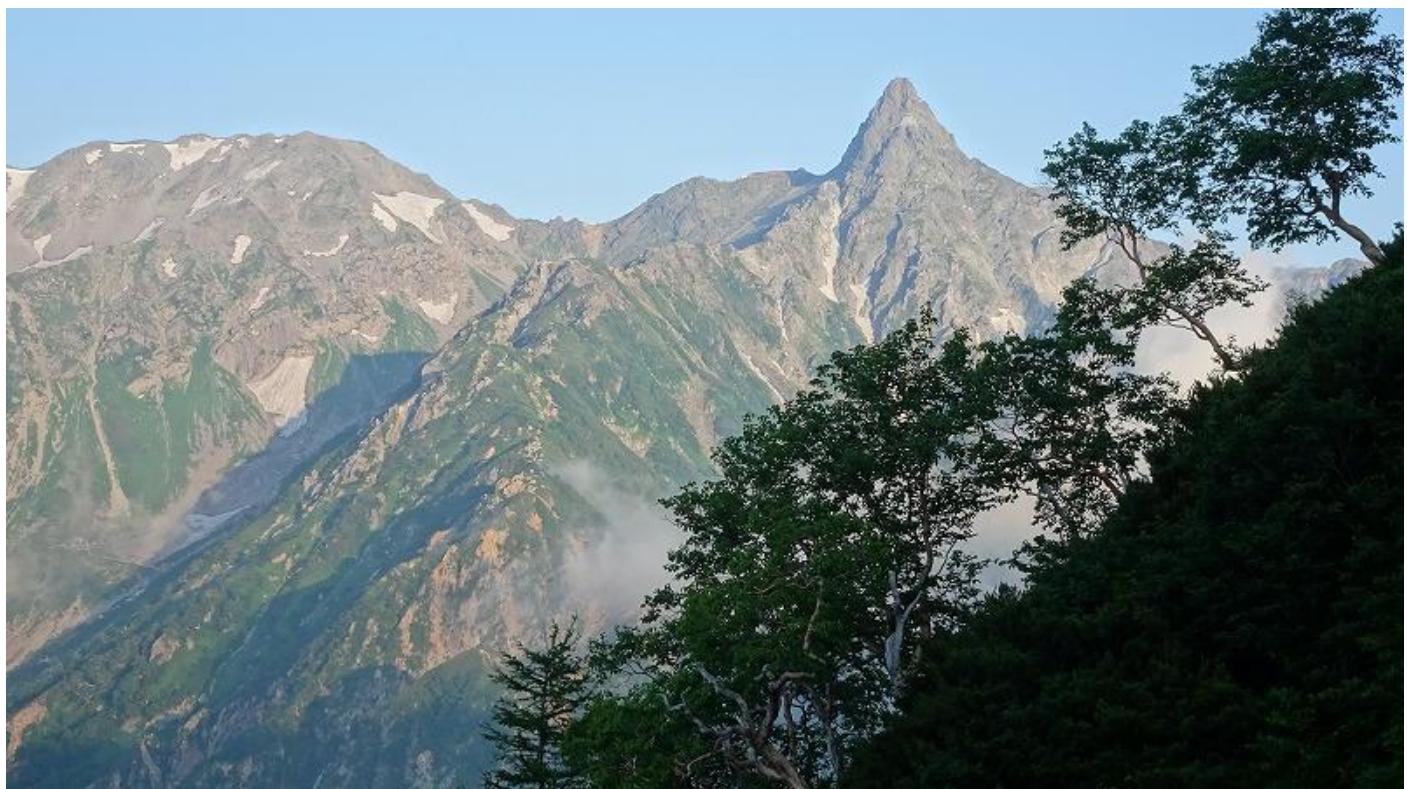
常念岳左方の山間から日が登ってきた。



朝日を受けて、槍ヶ岳が益々はっきり見えてきた。

今日はヒュッテ西岳から槍ヶ岳に向かい、山頂でクマさん旗を翻した後に、少し下った殺生ヒュッテに宿泊する。

写真（↓）はヒュッテ西岳から撮った槍ヶ岳までの稜線だ。この稜線をゆっくりと 6 時間ほどかけて歩く予定である。山荘から一旦「水俣乗越」まで大下りをする。そこから東鎌尾根に入り、更に大下りをしてから、今度は登り返しをして槍ヶ岳山荘を目指すことになる。



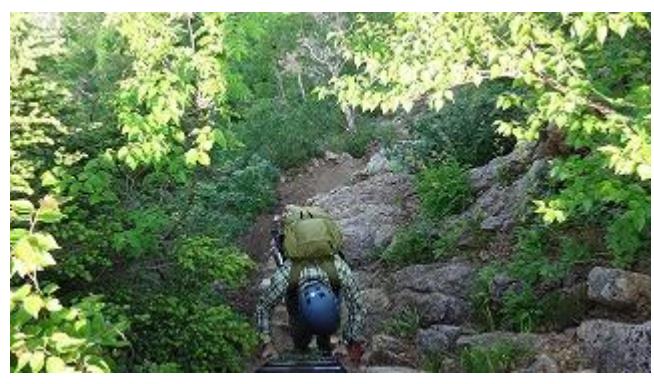


5時30分

ヒュッテ西岳を出発

小屋前からすぐに下りが始まる。梯子有り、鎖場有り、痩せ尾根の通過もしなければならない。





7時 水俣乗越に着いた。

「山と高原地図」に記載された標準時間60分のところを、90分かけて下ってきた。

水俣乗越までの登山道にはどこにでも高山植物が咲いていた。お花畠にも随所で出会えた。





小休止の後、水俣乗越を後にした。



30分くらい歩いたところで、ニッコウキスゲのお花畑に出会った。

ニッコウキスゲのお花畑では、かなり緊張する場面があったので覚えのために書き残しておきたい。

踏み跡がお花畑に向かって続いていた。正規の登山道と思って進んでいったのだが（写真下）・・・。そのうち別道を気楽に歩く2人の女性が通りかかって声をかけてきた。正規の道から外れていることを教えてくれた。



登山道から外れて、10m位進んでしまったんだろうか？

こういうガレ場は登って行くのは良いのだが、下りながら戻ってくるのはかなりの注意を要する。ガレ場のため、岩にはもろいものが沢山紛れている。落ちれば勿論奈落の底まで行ってしまう。

強心臓の堀さんは平気だったようだが、吉松は心臓が高鳴った。

\*この時の体験につき、後ほど2人で話し合って分かったことだが・・・

吉松は、「先を歩いている堀さんがきちんと踏み跡を見ていないから、酷い目に遭った」と、思っていた。

一方堀さんは、「後ろから、吉松がその道で間違いない、と言うから進んだんだ」と言っていた。

2人とも、自分の所為だとは思っていないことが判明した。

(これは正規の道じやあないと言ったんだけどね。シカトされちゃった。大体が、“銀座”に未舗装道路はないんだよ・・・「堀」談)

何はともあれ、無事で良かった。



本来の正規の道に戻って歩き始めた。

我々2人は写真右の傾斜の強いガレ場を歩いていたことになる。

クワバラ！クワバラ！

水俣乗越からヒュッテ大槍までの東鎌尾根は、痩せ尾根の厳しい登山道が続いていた。

流石に、同じような道迷いをするようなことは無かった。





9時50分

ヒュッテ大槍に到着した。



ヒュッテ大槍から遙か先に、今日宿泊する殺生ヒュッテを望むことが出来た。

(宿泊予定の殺生ヒュッテ ↓)



殺生ヒュッテと槍ヶ岳への指示板が立つ。  
槍ヶ岳に向けて進んだ。



やがて、先方に一際大きな槍ヶ岳の偉容が迫ってきた。



山の岩肌に沿って長い登山道が続く。



梯子を登ると、左下に殺生ヒュッテが見える。



上に目を向けると、目指す槍ヶ岳山荘が間に見えてきた。

人気の山荘だけに、流石に大きい。



11時20分、槍ヶ岳山荘到着  
ほぼ計画通りのコースタイムで歩いてきたことになる。

(槍ヶ岳山荘玄関↓)



槍ヶ岳山頂に向かう前に、山荘の食堂で腹ごしらえをすることにした。堀さんはラーメン、吉松はナス煮込み丼。



しっかりとエネルギーを詰め込んで、槍ヶ岳山頂に挑戦



吉松は登りがきつかった。

前後に若者に挟まれてしまったのがいけなかった。前の者は軽快に登っていき、後ろの者から追い立てられる格好になった。負けじとついていこうとすると、心臓がパクパクし始めた。

吉松の記憶では前世は猿では無かったはずなので、何も好んで細くて高いところへ登っていく必要は無かったのだ。悔やまれたが、あのの祭りだった。



12時30分 槍ヶ岳山頂（3180m）に立った。平均年齢7x歳の快挙の一瞬である。



下りの堀さんに試練が待っていた。

梯子をゆっくり下っていたのが仇になら<sup>あだ</sup>った。

先を急ぐ若者が、後先考えずに梯子を下りてきて、堀さんの頭をドツイタのだ。ヘルメットは落石には役立たなかつたが、足蹴りには役だつたようだ。堀さんは暫く憤慨していた。

（K国ツアーゴー一行様の一人です。おっさんです。梯子で間をあけるのは常識でしょう。不慣れなツアーカーは落石や滑落と同じ大きなリスクです。「堀」談）



無事に東鎌尾根を踏破して、槍ヶ岳山頂に立つことが出来た。感慨無量であった。



東鎌尾根でも沢山の花に出会った。



1時20分

槍ヶ岳山荘を後にした。

向かう先は今日宿泊の殺生ヒュッテ。



1時50分

殺生ヒュッテ到着

槍ヶ岳山荘は大混雑だったが、殺生ヒュッテは20名足らず。

受付を済ませると、蚕棚下段を自由に使って良いとのこと。

疲労の溜まった我々にとっては、最高のプレゼントであった。



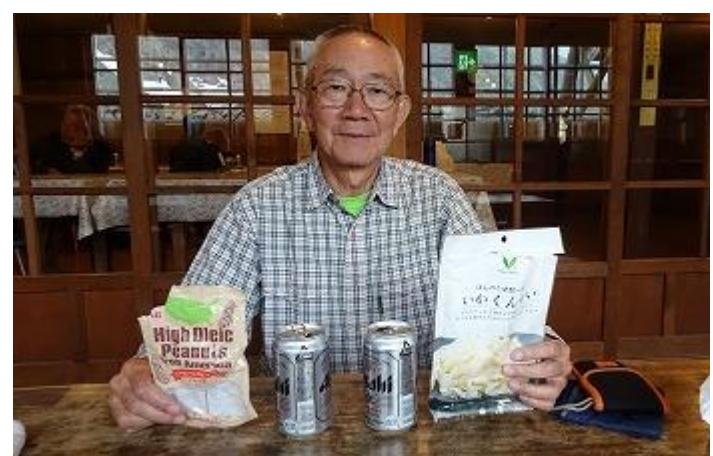
宿で一息ついたら、遠くから沢の流れのような雨音が聞こえてきて、暫く続いた。

不思議な音が聞こえるものだと話していると、やがて小屋の屋根に激しく雨が打ち付けてきた。夕立である。

あっという間に降り出してきたので、不意を襲われた登山者はびしょ濡れであった。我々は実についていたのだ。



予定のコースを完歩して、雨に中たることもなかった。感無量の乾杯であった。





### 5時 夕食

広々と使える食堂でゆっくりと食事を摂った。

(なんだ。昨日と同じ骨抜き鰯の煮付。付合せも同じだ。小屋が同じ系列だと飯も同じか。何とかしてくれ！「堀」談)

殺生ヒュッテの夜は、窮屈な思いをすること無く布団に潜り込める幸せを感じました。登山3日間の疲れが、すっかり取れるような快適さでした。

未だ、明日の最終日が残ってはいました。しかし、余程油断さえしなければまずは無事に上高地まで下山できる見込みが立ちました。ホッとすると同時に、ここまで歩いてこれた大きな達成感がありました。